

趣味のひとつ オールディーズ

第11巻 これでおしまいオールディーズ

猛暑が続いた昨年の夏に始めた連載も、いよいよ最終回になりました。今回は、特にテーマを決めず、オールディーズや懐かしい昭和を振り返ります。

◆フレンチポップス

この人を語らずしてフレンチポップスは語れません。そうシルヴィ・バルタン (1944年生)です。1964年の大ヒット曲「アイドルを探せ」で一躍世界中の人気を集めました。「あなたのとりこ」は映画「ウォーター・ボーイズ」で男子シンクロチームの演技曲として使われリバイバルヒットしましたね。またバラード調の「悲しみの兵士」と言う曲もありました。次にダニエル・ビダル (1952年生)です。「オー、シャンゼリゼ」「天使の落書き」「カトリーヌ」などのヒット曲がありますが、“♪透きとおってるって、ホントかな…♪”と歯磨きのテレビ・コマーシャルにも出演していました。「夢見るシャンソン人形」のフランス・ギャル (1947年生)の本名はイザベルだそうです。そうですね。自分の娘に「ニッポン」と付ける親はいないでしょうから。最後に、「夜霧のしのび逢い」のクロード・チアリ (1944年生)は日本に帰化し、智有 蔵上人 (ちあり くろうど)と言う日本名にして西宮にお住まいだそうです。

◆イタリアンポップス

先ず、ジリオラ・チンクエッティ (1947年生)です。“♪ノ、ノ、レタ…♪”で始まる「夢見る想い」や“♪ラ、ピオージャ♪”の「雨」、 “♪ナーポリ、フォルツウナ、ミーア♪”の「ナポリは恋人」がありました。3曲わざと歌詞の一部をカタカナで書きましたが、いずれもカタカナで書いた部分がイタリア語の曲名です。ウイルマ・ゴイク (1945年生)の「花のささやき」「花咲く丘に涙して」やミーナ (1940年生)の「月影のナポリ」「砂に消えた涙」、カテリーナ・ヴァレンテ (1931年生)「情熱の花」など女性歌手ばかりに眼が行きますが、男性歌手では、ドメニコ・モドゥーニョ (1928年生)の「ヴォラーレ」「チャオ・チャオ・バンビーナ」やボビー・ソロ (1945年生)の「ほほにかかる涙」、布施明 (1947年生) がカバーした「君に涙とほほえみを」がありました。面白いのは、ペピーノ・ガリアルディ (1940年生)の「ガラスの部屋」で、お笑いタレントのヒロシが“……ヒロシです……”と始める自虐ネタのBGMとして使ったことで有名になり、今ではレコード会社が曲名を「ヒロシのテーマ」に変えたそうです。(笑)

◆懐かしいテレビ番組（アメリカ）

最後に懐かしいテレビ番組を並べてみました。

・西部劇～“ローレン、ローレン、ローレン…♪”の「ローハイド」フェイバー隊長（エリック・フレミング）、ロディ（クリント・イーストウッド）は当時子供のヒーローでした。「ララミー牧場」流れ者のジェス・ハーパー役のロバート・フラー（1933年生）が1961年に来日した時の大騒ぎは今も記憶しています。「ローン・レンジャー」の“ハイヨー、シルバー”や“インディアン、嘘つかない…”“キモサベ”などの言葉が小学校で流行りました。ローン・レンジャーが登場する時のテーマ曲が「ウィリアム・テル序曲」だったなんて、中学校に行き初めて知りました。ジーン・バリー主演の「バット・マスターソン」、チャック・コナーズ主演の「ライフルマン」、ローン・グリーン主演の「ボナンザ」、タイ・ハーディン主演の「ブロンコ」など懐かしいですね。

・スパイ物～「0011 ナポレオン・ソロ」はロバート・ヴォーン（1932年生）とイリヤ・クリアキン役のデヴィッド・マッカラム（1933年生）が悪の組織スラッシュと戦う物語で、“コードネーム UNCLE”と言うタイトルで最近リバイバル製作され、映画ローンレンジャー役のアーミー・ハマーがイリヤ・クリアキン役で出演しました。ドン・アダムス（1923年生）が主演した「それ行けスマート」は秘密結社ケイオスと戦う、スパイ物のパロディ番組で靴が携帯電話になるなど面白いスパイ道具が出てきました。“おはよう、フェルプスくん…”で始まる「スパイ大作戦」にはリーダー役のピーター・グレイブス、変装の名人役にマーティン・ランドー、電気のプロ役のグレッグ・モリス、怪力マン役ピーター・ルーパーやレオナード・ニモイ等、個性派俳優が出演してワクワクしながら見ていました。「スパイ大作戦」の原題が、「ミッション・インポッシブル」だとは知りませんでした。

・その他～ヘンリー少尉（リック・ジェイソン）、サンダース軍曹（ヴィック・モロー）、フランス語が話せるケーリ上等兵、カービー二等兵、大男のリトル・ジョン上等兵、カーター衛生兵など個性的なメンバーが揃ったヒューマン・戦争ドラマの「コンバット」はテーマ曲も勇ましくて好きでした。キンブル医師（デヴィッド・ジャンセン）がジェラード警部（バリー・モース）に執拗に追われる「逃亡者」も良く観ました。

<私とオールディーズ>

第1巻でお話しましたように、オールディーズとの出会いは小学生の頃、日本のお姉さま方が歌う「明らかに歌謡曲じゃない調子の良い曲」を好きになったことです。当時はまだ、これらの曲がアメリカの曲で、それを日本語にして歌っ

ているとは知るよしもなく、中学生になって英語を学び始めた頃、時々ラジオで、知っている「あの曲」が日本語でなく英語で歌われているのに気が付きます。“えっ、どう言うこと…？”と疑問に思い、「あの曲」は実はアメリカで流行った曲なんだ…と知ることになります。そうなると日本語の「あの曲」より英語の「あの曲」の方が断然カッコ良く、歌詞はどんな意味なのだろうと英語に興味を持ち始めました。若い頃も、まだウォークマンが無い時代、FM ラジオのオールディーズ番組をカセットテープに録音し、語学学習用の小型カセットプレイヤーをカバンに入れイヤホンで聞いていました。重くてもう少し小さなカセットプレイヤーがあればよいのにと思っていたら、ウォークマンが発売されました。「必要は発明の母」と言いますが、自分でウォークマンもどきを考えていたことになります。その後カセットテープは CD に変わり今は iPod を愛用していますが、なぜあんな小さな物に数千曲もの音楽が保存され、どうやって音が出るのか知らぬまま毎日オールディーズを聞いています。最後に言わせてください。“オールディーズ万歳”

「趣味のひとつき オールディーズ」バックナンバー

- 第1巻 日本で流行ったあの歌、この歌
- 第2巻 ポップグループ時代の幕開け
- 第3巻 アメリカのフォークソング
- 第4巻 ポップグループあれこれ
- 第5巻 懐かしのソロ歌手
- 第6巻 キラリと光る一発屋
- 第7巻 日本のフォークソングとグループサウンズ
- 第8巻 ソウルミュージック
- 第9巻 スクリーン・ミュージック
- 第10巻 曲名で振り返るオールディーズ
- 第11巻 これでおしまいオールディーズ